

実務経験のある教員等による授業科目一覧（介護福祉学科）

授業科目	授業の実施形態	時間数	担当教員	実務経験の有無	実務経験
介護の基本Ⅰ	講義	45	加藤舞	有	特別養護老人ホーム勤務 7 年
介護総合演習Ⅰ	講義	30	加藤	有	特別養護老人ホーム勤務 7 年
介護総合演習Ⅱ	講義・演習	30	加藤舞	有	特別養護老人ホーム勤務 7 年
介護総合演習Ⅲ	講義	30	加藤舞	有	特別養護老人ホーム勤務 7 年
介護総合演習Ⅳ	講義・演習	30	加藤舞	有	特別養護老人ホーム勤務 7 年
介護実習Ⅰ	実習	130	加藤舞	有	特別養護老人ホーム勤務 7 年
介護実習Ⅱ	実習	160	加藤舞	有	特別養護老人ホーム勤務 7 年
介護実習Ⅲ	実習	160	加藤舞	有	特別養護老人ホーム勤務 7 年
生活支援技術 C	講義・演習	60	加藤舞	有	特別養護老人ホーム勤務 7 年
コミュニケーション技術 B	講義	15	加藤舞	有	特別養護老人ホーム勤務 7 年
人間関係とコミュニケーション	講義	30	加藤舞 野澤美和	有 有	特別養護老人ホーム勤務 7 年 介護老人保健施設勤務 19 年
卒業研究	演習	45	加藤舞 野澤美和 木佐貫美香	有 有 有	特別養護老人ホーム勤務 7 年 介護老人保健施設勤務 19 年 病院勤務 7 年
生活支援技術 B	講義	60	野澤美和	有	介護老人保健施設勤務 19 年
認知症の理解Ⅱ	講義	30	野澤美和	有	介護老人保健施設勤務 19 年
介護過程ⅠⅡ	講義	60	野澤美和	有	介護老人保健施設勤務 19 年
介護過程ⅢⅣ	講義	60	野澤美和	有	介護老人保健施設勤務 19 年
介護過程Ⅴ	講義	30	野澤美和	有	介護老人保健施設勤務 19 年
介護の基本Ⅱ	講義	45	野澤美和	有	介護老人保健施設勤務 19 年
介護の基本Ⅰ	講義	45	木佐貫美香	有	病院勤務 7 年
介護の基本Ⅱ	講義	45	木佐貫美香	有	病院勤務 7 年
こころとからだのしくみⅡ（2年）	講義	90	木佐貫美香	有	病院勤務 7 年
生活支援技術 D	講義	60	木佐貫美香	有	病院勤務 7 年
生活支援技術 E	講義	60	木佐貫美香	有	病院勤務 7 年
救急法	講義・演習	15	木佐貫美香	有	病院勤務 7 年
医療的ケア	講義・演習	50.10	木佐貫美香	有	病院勤務 7 年
合計		1425			

実務経験のある教員等による授業科目一覧（医療事務学科）

授業科目	授業の実施形態	時間数	担当教員	実務経験の有無	実務経験
医療事務（医科）	講義	120	木立幸子	有	病院勤務 6 年
医事法規	講義	60	木立幸子	有	病院勤務 6 年
合計		180			

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護の基本 I		授業の種類 講義	
授業担当者 木佐貫 美香 加藤 舞		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7 年 特別養護老人ホーム勤務 7 年	
授業の回数 90	時間数(単位数) 90	配当学年・時期 1年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>「尊厳の保持」「自立支援」という新しい介護の考え方を理解するとともに、「介護を必要とする人」を生活の視点から捉えるための学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>尊厳を支える介護、自立に向けた介護、介護を必要とする人の理解について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】①あらゆる場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。②介護を必要とする人の潜在的な能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 生活の考え方①(講義、質疑応答)</p> <p>02 生活の考え方②(講義、質疑応答)</p> <p>03 生活の考え方③(講義、質疑応答)</p> <p>04 私たちの生活①(講義、質疑応答)</p> <p>05 私たちの生活②(講義、質疑応答)</p> <p>06 私たちの生活③(講義、質疑応答)</p> <p>07 介護を必要とする人の理解(講義、質疑応答)</p> <p>08 自然な老いによって介護が必要になった事例①(講義、質疑応答)</p> <p>09 自然な老いによって介護が必要になった事例②(講義、質疑応答)</p> <p>10 障害者の事例①(講義、質疑応答)</p> <p>11 障害者の事例②(講義、質疑応答)</p> <p>12 障害者の事例③(講義、質疑応答)</p> <p>13 家族と暮らす高齢者の事例①(講義、質疑応答)</p> <p>14 家族と暮らす高齢者の事例②(講義、質疑応答)</p> <p>15 家族と暮らす高齢者の事例③(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-90次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「③介護の基本 I」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 一人で暮らす高齢者の事例①(講義、質疑応答)
- 17 一人で暮らす高齢者の事例②(講義、質疑応答)
- 18 一人で暮らす高齢者の事例③(講義、質疑応答)
- 19 認知機能の障害の事例①(講義、質疑応答)
- 20 認知機能の障害の事例②(講義、質疑応答)

- 21 認知機能の障害の事例③(講義、質疑応答)
- 22 尊厳を支える介護①(講義、質疑応答)
- 23 尊厳を支える介護②(講義、質疑応答)
- 24 尊厳を支える介護③(講義、質疑応答)
- 25 生活環境のとらえ方①(講義、質疑応答)
- 26 生活環境のとらえ方②(講義、質疑応答)
- 27 生活環境のとらえ方③(講義、質疑応答)
- 28 生活障害の理解と生活ニーズ①(講義、質疑応答)
- 29 生活障害の理解と生活ニーズ②(講義、質疑応答)
- 30 生活障害の理解と生活ニーズ③(講義、質疑応答)
- 31 介護の成り立ち①(講義、質疑応答)
- 32 介護の成り立ち②(講義、質疑応答)
- 33 介護の見方・考え方の変化①(講義、質疑応答)
- 34 介護の見方・考え方の変化②(講義、質疑応答)
- 35 利用者に合わせて生活支援①(講義、質疑応答)
- 36 利用者に合わせて生活支援②(講義、質疑応答)
- 37 利用者に合わせて生活支援③(講義、質疑応答)
- 38 自立に向けた介護①(講義、質疑応答)
- 39 自立に向けた介護②(講義、質疑応答)
- 40 自立に向けた介護③(講義、質疑応答)
- 41 介護の専門性①(講義、質疑応答)
- 42 介護の専門性②(講義、質疑応答)
- 43 介護の専門性③(講義、質疑応答)
- 44 身体的援助とその意義①(講義、質疑応答)
- 45 身体的援助とその意義②(講義、質疑応答)
- 46 身体的援助とその意義③(講義、質疑応答)
- 47 家事支援とその意義①(講義、質疑応答)
- 48 家事支援とその意義②(講義、質疑応答)
- 49 家事支援とその意義③(講義、質疑応答)
- 50 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義①(講義、質疑応答)
- 51 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義②(講義、質疑応答)
- 52 生活支援ニーズを見出す相談援助とその意義③(講義、質疑応答)
- 53 利用者・家族に対する精神的支援とその意義①(講義、質疑応答)
- 54 利用者・家族に対する精神的支援とその意義②(講義、質疑応答)
- 55 利用者・家族に対する精神的支援とその意義③(講義、質疑応答)
- 56 社会・文化的な援助とその意義①(講義、質疑応答)
- 57 社会・文化的な援助とその意義②(講義、質疑応答)
- 58 社会・文化的な援助とその意義③(講義、質疑応答)
- 59 尊厳を支えることの意味①(講義、質疑応答)
- 60 尊厳を支えることの意味②(講義、質疑応答)
- 61 尊厳を支えることの意味③(講義、質疑応答)
- 62 尊厳を支えることの意味④(講義、質疑応答)
- 63 QOLの考え方①(講義、質疑応答)
- 64 QOLの考え方②(講義、質疑応答)
- 65 QOLの考え方③(講義、質疑応答)
- 66 QOLの考え方④(講義、質疑応答)
- 67 ノーマライゼーションの実現①(講義、質疑応答)
- 68 ノーマライゼーションの実現②(講義、質疑応答)
- 69 ノーマライゼーションの実現③(講義、質疑応答)
- 70 ノーマライゼーションの実現④(講義、質疑応答)
- 71 介護におけるICFのとらえ方①(講義、質疑応答)
- 72 介護におけるICFのとらえ方②(講義、質疑応答)
- 73 介護におけるICFのとらえ方③(講義、質疑応答)
- 74 介護におけるICFのとらえ方④(講義、質疑応答)
- 75 ICFの視点に基づくアセスメント①(講義、質疑応答)
- 76 ICFの視点に基づくアセスメント②(講義、質疑応答)
- 77 ICFの視点に基づくアセスメント③(講義、質疑応答)

- 78 ICFの視点に基づくアセスメント④(講義、質疑応答)
- 79 介護実践におけるリハビリテーションの考え方①(講義、質疑応答)
- 80 介護実践におけるリハビリテーションの考え方②(講義、質疑応答)
- 81 介護実践におけるリハビリテーションの考え方③(講義、質疑応答)
- 82 介護実践におけるリハビリテーションの考え方④(講義、質疑応答)
- 83 日常生活と社会生活の能力の維持・拡大への支援①(講義、質疑応答)
- 84 日常生活と社会生活の能力の維持・拡大への支援②(講義、質疑応答)
- 85 日常生活と社会生活の能力の維持・拡大への支援③(講義、質疑応答)
- 86 日常生活と社会生活の能力の維持・拡大への支援④(講義、質疑応答)
- 87 リハビリテーション専門職との連携①(講義、質疑応答)
- 88 リハビリテーション専門職との連携②(講義、質疑応答)
- 89 リハビリテーション専門職との連携③(講義、質疑応答)
- 90 リハビリテーション専門職との連携④(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護の基本Ⅱ		授業の種類 講義	
授業担当者 木佐貫 美香 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7年 介護老人保健施設勤務 19年	
授業の回数 90	時間数(単位数) 90	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 介護における安全やチームケア等について理解するための学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護福祉士を取り巻く状況、介護福祉士の役割と支えるしくみ、 介護サービス、介護実践における連携、介護従事者の倫理、介護における安全の確保とリスクマネジメント、介護従事者の安全について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ①利用者本位のサービスを提供する為、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。 ②他の職種の役割を理解し、チームに参画する意義を理解できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 介護福祉士を取り巻く状況①(講義、質疑応答) 02 介護福祉士を取り巻く状況②(講義、質疑応答) 03 求められる介護福祉士像①(講義、質疑応答) 04 求められる介護福祉士像②(講義、質疑応答) 05 社会福祉士及び介護福祉士法の目的と概要①(講義、質疑応答) 06 社会福祉士及び介護福祉士法の目的と概要②(講義、質疑応答) 07 介護福祉士に関連する諸規定①(講義、質疑応答) 08 介護福祉士に関連する諸規定②(講義、質疑応答) 09 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ①(講義、質疑応答) 10 介護福祉士の役割と機能を支えるしくみ②(講義、質疑応答) 11 専門職能団体としての日本介護福祉士会①(講義、質疑応答) 12 専門職能団体としての日本介護福祉士会②(講義、質疑応答) 13 介護従事者の倫理①(講義、質疑応答) 14 介護従事者の倫理②(講義、質疑応答) 15 日本介護福祉士会倫理綱領①(講義、質疑応答) ※16-90次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「④介護の基本Ⅱ」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 日本介護福祉士会倫理綱領②(講義、質疑応答)
17 介護サービス(講義、質疑応答)
18 介護サービスとケアマネジメント①(講義、質疑応答)

- 19 介護サービスとケアマネジメント②(講義、質疑応答)
- 20 介護サービスの歴史的変遷と時代背景①(講義、質疑応答)
- 21 介護サービスの歴史的変遷と時代背景②(講義、質疑応答)
- 22 介護サービスの歴史的変遷と時代背景③(講義、質疑応答)
- 23 多様化する介護サービスと提供の場①(講義、質疑応答)
- 24 多様化する介護サービスと提供の場②(講義、質疑応答)
- 25 多様化する介護サービスと提供の場③(講義、質疑応答)
- 26 居宅系サービス提供の場とその特性①(講義、質疑応答)
- 27 居宅系サービス提供の場とその特性②(講義、質疑応答)
- 28 居宅系サービス提供の場とその特性③(講義、質疑応答)
- 29 入所系サービス提供の場とその特性①(講義、質疑応答)
- 30 入所系サービス提供の場とその特性②(講義、質疑応答)
- 31 入所系サービス提供の場とその特性③(講義、質疑応答)
- 32 介護実践における連携①(講義、質疑応答)
- 33 介護実践における連携②(講義、質疑応答)
- 34 介護実践における連携③(講義、質疑応答)
- 35 協働職種の機能と役割①(講義、質疑応答)
- 36 協働職種の機能と役割②(講義、質疑応答)
- 37 協働職種の機能と役割③(講義、質疑応答)
- 38 利用者を取り巻く多職種連携の実際①(講義、質疑応答)
- 39 利用者を取り巻く多職種連携の実際②(講義、質疑応答)
- 40 利用者を取り巻く多職種連携の実際③(講義、質疑応答)
- 41 地域連携の意義と目的①(講義、質疑応答)
- 42 地域連携の意義と目的②(講義、質疑応答)
- 43 地域連携の意義と目的③(講義、質疑応答)
- 44 地域連携に関わる期間の機能と役割①(講義、質疑応答)
- 45 地域連携に関わる期間の機能と役割②(講義、質疑応答)
- 46 地域連携に関わる期間の機能と役割③(講義、質疑応答)
- 47 利用者を取り巻く地域連携の実際①(講義、質疑応答)
- 48 利用者を取り巻く地域連携の実際②(講義、質疑応答)
- 49 利用者を取り巻く地域連携の実際③(講義、質疑応答)
- 50 介護における安全の確保とリスクマネジメント(講義、質疑応答)
- 51 介護における安全の確保の重要性①(講義、質疑応答)
- 52 介護における安全の確保の重要性②(講義、質疑応答)
- 53 安全確保のためのリスクマネジメント①(講義、質疑応答)
- 54 安全確保のためのリスクマネジメント②(講義、質疑応答)
- 55 安全確保のためのリスクマネジメント③(講義、質疑応答)
- 56 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ①(講義、質疑応答)
- 57 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ②(講義、質疑応答)
- 58 事故防止、安全対策のためのリスクマネジメントのしくみ③(講義、質疑応答)
- 59 事故防止、安全対策の基礎と実際①(講義、質疑応答)
- 60 事故防止、安全対策の基礎と実際②(講義、質疑応答)
- 61 事故防止、安全対策の基礎と実際③(講義、質疑応答)
- 62 生活の場の感染対策①(講義、質疑応答)
- 63 生活の場の感染対策②(講義、質疑応答)
- 64 生活の場の感染対策③(講義、質疑応答)
- 65 高齢者介護施設と感染対策①(講義、質疑応答)
- 66 高齢者介護施設と感染対策②(講義、質疑応答)
- 67 高齢者介護施設と感染対策③(講義、質疑応答)
- 68 感染対策とリスクマネジメント①(講義、質疑応答)
- 69 感染対策とリスクマネジメント②(講義、質疑応答)
- 70 感染対策とリスクマネジメント③(講義、質疑応答)
- 71 感染対策の基礎知識①(講義、質疑応答)
- 72 感染対策の基礎知識②(講義、質疑応答)
- 73 感染対策の基礎知識③(講義、質疑応答)
- 74 感染症発生時の対応①(講義、質疑応答)
- 75 感染症発生時の対応②(講義、質疑応答)

- 76 感染症発生時の対応③(講義、質疑応答)
- 77 介護従事者の安全①(講義、質疑応答)
- 78 介護従事者の安全②(講義、質疑応答)
- 79 介護従事者の安全③(講義、質疑応答)
- 80 こころの健康管理①(講義、質疑応答)
- 81 こころの健康管理②(講義、質疑応答)
- 82 こころの健康管理③(講義、質疑応答)
- 83 からだの健康管理①(講義、質疑応答)
- 84 からだの健康管理②(講義、質疑応答)
- 85 からだの健康管理③(講義、質疑応答)
- 86 安心して働ける環境づくり①(講義、質疑応答)
- 87 安心して働ける環境づくり②(講義、質疑応答)
- 88 安心して働ける環境づくり③(講義、質疑応答)
- 89 介護福祉士をめざすみなさんへ①(講義、質疑応答)
- 90 介護福祉士をめざすみなさんへ②(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護総合演習 I		授業の種類 講義	
授業担当者 加藤 舞		具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホーム勤務 7 年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1 年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護実習の意義と目的、実習先の概要、実習 I の展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 あらゆる介護場面に共通する基礎的な知識・技術を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 介護実習はこんなにおもしろい(講義、質疑応答) 02 なぜ介護実習が必要なのか(演習、質疑応答) 03 介護実習で何を学ぶか(講義、質疑応答) 04 実習 I の目的とおもな実習内容(講義、質疑応答) 05 実習 II の目的とおもな実習内容(講義、質疑応答) 06 実習前に何を学んだか(講義、質疑応答) 07 他科目での学びをどのように活かすか(講義、質疑応答) 08 通所介護①(講義、質疑応答) 09 通所介護②(講義、質疑応答) 10 特別養護老人ホーム(実習 I)(講義、質疑応答) 11 老人保健施設(実習 II)(講義、質疑応答) 12 グループホーム①(講義、質疑応答) 13 グループホーム②(講義、質疑応答) 14 小規模多機能①(講義、質疑応答) 15 小規模多機能②(講義、質疑応答) ※16-30次項添付</p>			
【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士養成講座 「⑩介護総合演習・実習」(中央法規出版)		【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 実習を始めるまでの手続き(講義、質疑応答)
- 17 実習生の心得①(講義、質疑応答)
- 18 実習生の心得②(講義、質疑応答)
- 19 実習生の心得③(講義、質疑応答)
- 20 実習生の心得④(講義、質疑応答)

- 21 実習計画と記録(日誌)①(講義、質疑応答)
- 22 実習計画と記録(日誌)②(講義、質疑応答)
- 23 実習計画と記録(日誌)③(講義、質疑応答)
- 24 実習計画と記録(日誌)④(講義、質疑応答)
- 25 コラム(講義、質疑応答)
- 26 実習モデル①(講義、質疑応答)
- 27 実習モデル②(講義、質疑応答)
- 28 実習モデル③(講義、質疑応答)
- 29 実習終了後に行うこと(講義、質疑応答)
- 30 実習の振り返りの重要性(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護総合演習Ⅱ		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 加藤 舞		具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホーム勤務7年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実習先の概要、実習Ⅱの展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 実習Ⅱの目的とおもな実習内容①(講義、質疑応答) 02 実習Ⅱの目的とおもな実習内容②(講義、質疑応答) 03 特別養護老人ホーム(実習Ⅱ)①(講義、質疑応答) 04 特別養護老人ホーム(実習Ⅱ)②(講義、質疑応答) 05 特別養護老人ホーム(実習Ⅱ)③(講義、質疑応答) 06 特別養護老人ホーム(実習Ⅱ)④(演習、質疑応答) 07 老人保健施設(実習Ⅱ)①(講義、質疑応答) 08 老人保健施設(実習Ⅱ)②(講義、質疑応答) 09 老人保健施設(実習Ⅱ)③(講義、質疑応答) 10 老人保健施設(実習Ⅱ)④(演習、質疑応答) 11 身体障害者療護施設①(講義、質疑応答) 12 身体障害者療護施設②(講義、質疑応答) 13 身体障害者療護施設③(講義、質疑応答) 14 身体障害者療護施設④(演習、質疑応答) 15 実習前に何を学んだか(講義、質疑応答) ※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「⑩介護総合演習・実習」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 他科目での学びをどのように活かすか(講義、質疑応答)
- 17 実習を始めるまでの手続き(講義、質疑応答)
- 18 実習計画と記録(日誌)①(講義、質疑応答)
- 19 実習計画と記録(日誌)②(講義、質疑応答)
- 20 実習計画と記録(日誌)③(演習、質疑応答)

- 21 実習計画と記録(日誌)④(演習、質疑応答)
- 22 コラム(講義、質疑応答)
- 23 実習モデル①—①(演習、質疑応答)
- 24 実習モデル①—②(演習、質疑応答)
- 25 実習モデル②—①(演習、質疑応答)
- 26 実習モデル②—②(演習、質疑応答)
- 27 実習終了後に行うこと①(講義、質疑応答)
- 28 実習終了後に行うこと②(講義、質疑応答)
- 29 実習の振り返りの重要性①(講義、質疑応答)
- 30 実習の振り返りの重要性②(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護総合演習Ⅲ		授業の種類 講義	
授業担当者 加藤 舞		具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホーム勤務 7年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等ついて、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護実習と他科目との関連、実習先の概要、実習Ⅱの展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 実習Ⅰの目的とおもな実習内容①(講義、質疑応答) 02 実習Ⅰの目的とおもな実習内容②(講義、質疑応答) 03 実習Ⅱの目的とおもな実習内容①(講義、質疑応答) 04 実習Ⅱの目的とおもな実習内容②(講義、質疑応答) 05 実習前に何を学んだか①(講義、質疑応答) 06 実習前に何を学んだか②(講義、質疑応答) 07 他科目での学びをどのように活かすか①(講義、質疑応答) 08 他科目での学びをどのように活かすか②(講義、質疑応答) 09 訪問介護(実習Ⅰ)①(講義、質疑応答) 10 訪問介護(実習Ⅰ)②(講義、質疑応答) 11 訪問介護(実習Ⅰ)③(講義、質疑応答) 12 訪問介護(実習Ⅰ)④(講義、質疑応答) 13 実習生の心得①(講義、質疑応答) 14 実習生の心得②(講義、質疑応答) 15 実習生の心得③(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「⑩介護総合演習・実習」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 実習生の心得④(講義、質疑応答)
- 17 実習を始めるまでの手続き(講義、質疑応答)
- 18 実習計画と記録①(講義、質疑応答)
- 19 実習計画と記録②(講義、質疑応答)
- 20 実習計画と記録③(講義、質疑応答)

- 21 実習計画と記録④(講義、質疑応答)
- 22 実習モデル①—①(講義、質疑応答)
- 23 実習モデル①—②(講義、質疑応答)
- 24 実習モデル②—①(講義、質疑応答)
- 25 実習モデル②—②(講義、質疑応答)
- 26 実習終了後に行うこと①(講義、質疑応答)
- 27 実習終了後に行うこと②(講義、質疑応答)
- 28 実習の振り返りの重要性①(講義、質疑応答)
- 29 実習の振り返りの重要性②(講義、質疑応答)
- 30 実習の振り返りの重要性③(演習、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護総合演習Ⅳ		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 加藤 舞		具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホーム勤務7年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 実習に必要な知識や技術、介護過程の展開の能力等について、個別の学習到達状況に応じた総合的な学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 実習先の概要、実習Ⅱの展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 ケアハウス①(講義、質疑応答) 02 ケアハウス②(講義、質疑応答) 03 ケアハウス③(講義、質疑応答) 04 ケアハウス④(演習、質疑応答) 05 重症心身障害児施設①(講義、質疑応答) 06 重症心身障害児施設②(講義、質疑応答) 07 重症心身障害児施設③(講義、質疑応答) 08 重症心身障害児施設④(演習、質疑応答) 09 知的障害者更生施設①(講義、質疑応答) 10 知的障害者更生施設②(講義、質疑応答) 11 知的障害者更生施設③(講義、質疑応答) 12 知的障害者更生施設④(演習、質疑応答) 13 訪問介護(実習Ⅱ)①(講義、質疑応答) 14 訪問介護(実習Ⅱ)②(講義、質疑応答) 15 訪問介護(実習Ⅱ)③(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「⑩介護総合演習・実習」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 訪問介護(演習、質疑応答)
- 17 実習終了後に行うこと①(講義、質疑応答)
- 18 実習終了後に行うこと②(講義、質疑応答)
- 19 実習終了後に行うこと③(講義、質疑応答)
- 20 実習終了後に行うこと④(演習、質疑応答)

- 21 実習終了後に行うこと⑤(演習、質疑応答)
- 22 実習終了後に行うこと⑥(演習、質疑応答)
- 23 実習終了後に行うこと⑦(演習、質疑応答)
- 24 実習の振り返りの重要性①(講義、質疑応答)
- 25 実習の振り返りの重要性②(講義、質疑応答)
- 26 実習の振り返りの重要性③(講義、質疑応答)
- 27 実習の振り返りの重要性④(講義、質疑応答)
- 28 実習の振り返りの重要性⑤(講義、質疑応答)
- 29 実習の振り返りの重要性⑥(演習、質疑応答)
- 30 実習の振り返りの重要性⑦(演習、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護実習Ⅰ		授業の種類 実 習	
授業担当者 木佐貫 美香 加藤 舞 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7年 特別養護老人ホーム勤務 7年 介護老人保健施設勤務 19年	
授業の回数	時間数(単位数) 130	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必 修
<p>【授業の目的・ねらい】 個々の生活リズムや個性を理解するという観点から様々な生活の場において個別ケアを理解し、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、多職種協働や関係機関との連携を通じてチームの一員としての介護福祉士の役割について理解する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 個別ケアの理解、利用者・家族とのコミュニケーションの実践、介護技術の確認、チームアプローチの理解について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>①あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識、技術を習得する。 ②利用者本意のサービスを提供するため、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>実習施設種別 ・通所介護 ・認知症対応型共同生活介護 ・小規模多機能型居宅介護 ・訪問介護事業所</p> <p>期間 1年次 10月5日～10月27日(17日間、130時間)</p> <p>指導方法 担当教員が週1回の巡回指導を行う。</p>			
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】 実習施設指導者からの評価表、実習日誌、取り組む姿勢等を勘案し、総合的に判断し単位認定を行う。	

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護実習Ⅱ		授業の種類 実習	
授業担当者 木佐貫 美香 加藤 舞 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7年 特別養護老人ホーム勤務 7年 介護老人保健施設勤務 19年	
授業の回数	時間数(単位数) 160	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 個別ケアの理解、介護過程の実践的展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>実習施設種別 ・特別養護老人ホーム ・介護老人保健施設 ・障害者自立支援施設</p> <p>期間 1年次 3月1日～3月26日(20日間、160時間)</p> <p>指導方法 担当教員が週1回巡回指導を行う。</p>			
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】 実習施設指導者からの評価表、実習日誌、取り組む姿勢等を勘案し、総合的に判断し単位認定を行う。	

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護実習Ⅲ		授業の種類 実 習	
授業担当者 木佐貫 美香 加藤 舞 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7 年 特別養護老人ホーム勤務 7 年 介護老人保健施設勤務 19 年	
授業の回数	時間数(単位数) 160	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必 修
<p>【授業の目的・ねらい】 個別ケアを行うために個々の生活リズムや個性を理解し、利用者の課題を明確にするための利用者ごとの介護計画の作成、実施後の評価やこれを踏まえた計画の修正といった介護過程を展開し、他科目で学習した知識や技術を総合して、具体的な介護サービスの提供の基本となる実践力を習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 個別ケアの理解、介護過程の実践的展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>実習施設種別 ・特別養護老人ホーム ・介護老人保健施設 ・障害者自立支援施設</p> <p>期間 2年次 9月7日～10月2日(20日間、160時間)</p> <p>指導方法 担当教員が週1回巡回指導を行う。</p>			
【使用テキスト・参考文献】		【単位認定の方法及び基準】 実習施設指導者からの評価表、実習日誌、取り組む姿勢等を勘案し、総合的に判断し単位認定を行う。	

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 生活支援技術 B		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 19 年	
授業の回数 60	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 1 年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる知識について習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 自立に向けた身じたくの介護、自立に向けた移動の介護、自立に向けた食事の介護について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ①あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 ②介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 01 想定される事故と予防的視点(演習、質疑応答) 02 緊急時における連携について(演習、質疑応答) 03 外傷における処置(演習、質疑応答) 04 誤嚥における処置(演習、質疑応答) 05 その他(演習、質疑応答) 06 演習課題(演習、質疑応答) 07 アセスメントの意味(講義、質疑応答) 08 アセスメントの手法について(演習、質疑応答) 09 演習課題(演習、質疑応答) 10 自立に向けた身じたくの介護①(講義、質疑応答) 11 自立に向けた身じたくの介護②(演習、質疑応答) 12 身じたくにおけるアセスメント①(演習、質疑応答) 13 身じたくにおけるアセスメント②(演習、質疑応答) 14 整容①(講義、質疑応答) 15 整容②(演習、質疑応答) ※16-60次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士養成講座 「⑥生活支援技術Ⅰ」「⑦生活支援技術Ⅱ」 (中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

16 整容③(演習、質疑応答)

- 17 口腔の清潔①(講義、質疑応答)
- 18 口腔の清潔②(演習、質疑応答)
- 19 口腔の清潔③(演習、質疑応答)
- 20 衣服の着脱①(講義、質疑応答)
- 21 衣服の着脱②(演習、質疑応答)
- 22 衣服の着脱③(演習、質疑応答)
- 23 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 24 演習課題①(演習、質疑応答)
- 25 演習課題②(演習、質疑応答)
- 26 自立に向けた移動の介護①(講義、質疑応答)
- 27 自立に向けた移動の介護②(演習、質疑応答)
- 28 移動におけるアセスメント①(講義、質疑応答)
- 29 移動におけるアセスメント②(演習、質疑応答)
- 30 体位変換①(講義、質疑応答)
- 31 体位変換②(演習、質疑応答)
- 32 体位変換③(演習、質疑応答)
- 33 安楽な体位の保持①(講義、質疑応答)
- 34 安楽な体位の保持②(演習、質疑応答)
- 35 安楽な体位の保持③(演習、質疑応答)
- 36 車椅子の介助①(講義、質疑応答)
- 37 車椅子の介助②(演習、質疑応答)
- 38 車椅子の介助③(演習、質疑応答)
- 39 歩行介助①(講義、質疑応答)
- 40 歩行介助②(演習、質疑応答)
- 41 歩行介助③(演習、質疑応答)
- 42 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 43 演習課題①(演習、質疑応答)
- 44 演習課題②(演習、質疑応答)
- 45 自立に向けた食事の介護①(講義、質疑応答)
- 46 自立に向けた食事の介護②(演習、質疑応答)
- 47 食事のアセスメント①(講義、質疑応答)
- 48 食事のアセスメント②(演習、質疑応答)
- 49 食事の介助①(講義、質疑応答)
- 50 食事の介助②(演習、質疑応答)
- 51 食事の介助③(演習、質疑応答)
- 52 誤嚥・窒息の防止①(講義、質疑応答)
- 53 誤嚥・窒息の防止②(演習、質疑応答)
- 54 誤嚥・窒息の防止③(演習、質疑応答)
- 55 脱水の予防①(講義、質疑応答)
- 56 脱水の予防②(演習、質疑応答)
- 57 脱水の予防③(演習、質疑応答)
- 58 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 59 演習課題①(演習、質疑応答)
- 60 演習課題②(演習、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 生活支援技術 C		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 加藤 舞		具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホーム勤務 7年	
授業の回数 60	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 1年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持の観点から、どのような状態であってもその人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習をする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 自立に向けた入浴、生活保持の介護、自立に向けた排泄の介護、自立に向けた睡眠の介護、 終末期の介護について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ①あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 ②介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 自立に向けた入浴・清潔保持の介護①(講義、質疑応答) 02 自立に向けた入浴・清潔保持の介護②(講義、質疑応答) 03 入浴におけるアセスメント①(講義、質疑応答) 04 入浴におけるアセスメント②(演習、質疑応答) 05 入浴の介助①(講義、質疑応答) 06 入浴の介助②(演習、質疑応答) 07 入浴の介助③(演習、質疑応答) 08 清拭①(講義、質疑応答) 09 清拭②(演習、質疑応答) 10 清拭③(演習、質疑応答) 11 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答) 12 演習課題①(演習、質疑応答) 13 演習課題②(演習、質疑応答) 14 自立に向けた排泄の介護①(講義、質疑応答) 15 自立に向けた排泄の介護②(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-60次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「⑦生活支援技術Ⅱ」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 排泄におけるアセスメント①(講義、質疑応答)
17 排泄におけるアセスメント②(演習、質疑応答)
18 排泄の介助①(演習、質疑応答)

- 19 排泄の介助②(演習、質疑応答)
- 20 排泄の介助③(演習、質疑応答)
- 21 採尿器・差込便器・導尿器の使い方①(講義、質疑応答)
- 22 採尿器・差込便器・導尿器の使い方②(演習、質疑応答)
- 23 採尿器・差込便器・導尿器の使い方③(演習、質疑応答)
- 24 浣腸、坐薬挿入①(講義、質疑応答)
- 25 浣腸、坐薬挿入②(演習、質疑応答)
- 26 浣腸、坐薬挿入③(演習、質疑応答)
- 27 頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応①(講義、質疑応答)
- 28 頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応②(演習、質疑応答)
- 29 頻尿、尿失禁、便秘、下痢、便失禁への対応③(演習、質疑応答)
- 30 他職種役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 31 演習課題①(演習、質疑応答)
- 32 演習課題②(演習、質疑応答)
- 33 自立に向けた睡眠の介護①(講義、質疑応答)
- 34 自立に向けた睡眠の介護②(講義、質疑応答)
- 35 睡眠におけるアセスメント①(講義、質疑応答)
- 36 睡眠におけるアセスメント②(演習、質疑応答)
- 37 不眠時の介助①(講義、質疑応答)
- 38 不眠時の介助②(演習、質疑応答)
- 39 不眠時の介助③(演習、質疑応答)
- 40 睡眠と薬①(講義、質疑応答)
- 41 睡眠と薬②(講義、質疑応答)
- 42 睡眠と薬③(演習、質疑応答)
- 43 他職種役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 44 演習課題①(演習、質疑応答)
- 45 演習課題②(演習、質疑応答)
- 46 終末期の介護①(講義、質疑応答)
- 47 終末期の介護②(講義、質疑応答)
- 48 終末期におけるアセスメント①(講義、質疑応答)
- 49 終末期におけるアセスメント②(演習、質疑応答)
- 50 終末期における介護①(講義、質疑応答)
- 51 終末期における介護②(講義、質疑応答)
- 52 終末期における介護③(演習、質疑応答)
- 53 臨終時の介護①(講義、質疑応答)
- 54 臨終時の介護②(演習、質疑応答)
- 55 臨終時の介護③(演習、質疑応答)
- 56 死後の対応①(講義、質疑応答)
- 57 死後の対応②(演習、質疑応答)
- 58 他職種役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 59 演習課題①(演習、質疑応答)
- 60 演習課題②(演習、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 生活支援技術D		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 木佐貫 美香		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7年	
授業の回数 60	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ①あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識、技術を習得する。 ②介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 視覚障害者と生活の理解①(講義、質疑応答) 02 視覚障害者と生活の理解②(演習、質疑応答) 03 家事支援と環境整備(講義、質疑応答) 04 介護技術の展開①(演習、質疑応答) 05 介護技術の展開②(演習、質疑応答) 06 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答) 07 演習課題①(演習、質疑応答) 08 演習課題②(演習、質疑応答) 09 聴覚・言語障害者と生活の理解①(講義、質疑応答) 10 聴覚・言語障害者と生活の理解②(演習、質疑応答) 11 家事支援と環境整備(講義、質疑応答) 12 介護技術の展開①(演習、質疑応答) 13 介護技術の展開②(演習、質疑応答) 14 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答) 15 演習課題①(演習、質疑応答) ※16-60次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士養成講座 「⑧生活支援技術Ⅲ」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 演習課題②(演習、質疑応答)
17 運動機能障害のある人と生活の理解①(講義、質疑応答)
18 運動機能障害のある人と生活の理解②(演習、質疑応答)

- 19 家事支援と環境整備(講義、質疑応答)
- 20 介護技術の展開①(演習、質疑応答)
- 21 介護技術の展開②(演習、質疑応答)
- 22 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 23 演習課題①(演習、質疑応答)
- 24 演習課題②(演習、質疑応答)
- 25 知的障害者と生活の理解①(講義、質疑応答)
- 26 知的障害者と生活の理解②(演習、質疑応答)
- 27 家事支援と環境整備(講義、質疑応答)
- 28 介護技術の展開①(演習、質疑応答)
- 29 介護技術の展開②(演習、質疑応答)
- 30 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 31 演習課題①(演習、質疑応答)
- 32 演習課題②(演習、質疑応答)
- 33 発達障害のある人と生活の理解①(講義、質疑応答)
- 34 発達障害のある人と生活の理解②(演習、質疑応答)
- 35 家事支援と環境整備(講義、質疑応答)
- 36 介護技術の展開①(演習、質疑応答)
- 37 介護技術の展開②(演習、質疑応答)
- 38 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 39 演習課題①(演習、質疑応答)
- 40 演習課題②(演習、質疑応答)
- 41 精神障害者と生活の理解①(講義、質疑応答)
- 42 精神障害者と生活の理解②(演習、質疑応答)
- 43 家事支援と環境整備(講義、質疑応答)
- 44 介護技術の展開①(演習、質疑応答)
- 45 介護技術の展開②(演習、質疑応答)
- 46 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 47 演習課題①(演習、質疑応答)
- 48 演習課題②(演習、質疑応答)
- 49 認知症ケアにおける基本視点①(講義、質疑応答)
- 50 認知症ケアにおける基本視点②(演習、質疑応答)
- 51 (事例)特別養護老人ホームでの異食①(演習、質疑応答)
- 52 (事例)特別養護老人ホームでの異食②(演習、質疑応答)
- 53 (事例)グループホームでの徘徊①(演習、質疑応答)
- 54 (事例)グループホームでの徘徊②(演習、質疑応答)
- 55 (事例)小規模多機能型居宅介護での入浴拒否①(演習、質疑応答)
- 56 (事例)小規模多機能型居宅介護での入浴拒否②(演習、質疑応答)
- 57 (事例)デイサービスでの暴力行為①(演習、質疑応答)
- 58 (事例)デイサービスでの暴力行為②(演習、質疑応答)
- 59 (事例)ホームヘルプサービスでのもの盗られ妄想①(演習、質疑応答)
- 60 (事例)ホームヘルプサービスでのもの盗られ妄想②(演習、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 生活支援技術E		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 木佐貫 美香		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7年	
授業の回数 60	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 尊厳の保持の観点から、どのような状態であっても、その人の自立・自律を尊重し、潜在能力を引き出し、見守ることも含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術や知識について習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 利用者の状態・状況に応じた介助の留意点について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ①あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。 ②介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 高次脳機能障害のある人と生活の理解①(講義、質疑応答) 02 高次脳機能障害のある人と生活の理解②(演習、質疑応答) 03 家事支援と環境整備(講義、質疑応答) 04 介護技術の展開①(演習、質疑応答) 05 介護技術の展開②(演習、質疑応答) 06 介護技術の展開③(演習、質疑応答) 07 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答) 08 演習課題①(演習、質疑応答) 09 演習課題②(演習、質疑応答) 10 心臓機能障害のある人と生活の理解①(講義、質疑応答) 11 心臓機能障害のある人と生活の理解②(演習、質疑応答) 12 家事支援と環境整備(講義、質疑応答) 13 介護技術の展開①(演習、質疑応答) 14 介護技術の展開②(演習、質疑応答) 15 介護技術の展開③(演習、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-60次項添付</p>			
【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士養成講座 「⑧生活支援技術Ⅲ」(中央法規出版)		【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
17 演習課題①(演習、質疑応答)
18 演習課題②(演習、質疑応答)
19 腎臓機能障害のある人と生活の理解①(講義、質疑応答)

- 20 腎臓機能障害のある人と生活の理解②(演習、質疑応答)
- 21 家事支援と環境整備(講義、質疑応答)
- 22 介護技術の展開①(演習、質疑応答)
- 23 介護技術の展開②(演習、質疑応答)
- 24 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 25 演習課題①(演習、質疑応答)
- 26 演習課題②(演習、質疑応答)
- 27 呼吸器機能障害のある人と生活の理解①(講義、質疑応答)
- 28 呼吸器機能障害のある人と生活の理解②(演習、質疑応答)
- 29 家事支援と環境整備(講義、質疑応答)
- 30 介護技術の展開①(演習、質疑応答)
- 31 介護技術の展開②(演習、質疑応答)
- 32 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 33 演習課題①(演習、質疑応答)
- 34 演習課題②(演習、質疑応答)
- 35 膀胱・直腸機能障害のある人と生活の理解①(講義、質疑応答)
- 36 膀胱・直腸機能障害のある人と生活の理解②(演習、質疑応答)
- 37 家事支援と環境整備(講義、質疑応答)
- 38 介護技術の展開①(演習、質疑応答)
- 39 介護技術の展開②(演習、質疑応答)
- 40 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 41 演習課題①(演習、質疑応答)
- 42 演習課題②(演習、質疑応答)
- 43 重症心身障害者と生活の理解①(講義、質疑応答)
- 44 重症心身障害者と生活の理解②(演習、質疑応答)
- 45 家事支援と環境整備(講義、質疑応答)
- 46 介護技術の展開①(演習、質疑応答)
- 47 介護技術の展開②(演習、質疑応答)
- 48 介護技術の展開③(演習、質疑応答)
- 49 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 50 演習課題①(演習、質疑応答)
- 51 演習課題②(演習、質疑応答)
- 52 盲ろう者と生活の理解①(講義、質疑応答)
- 53 盲ろう者と生活の理解②(演習、質疑応答)
- 54 家事支援と環境整備(講義、質疑応答)
- 55 介護技術の展開①(演習、質疑応答)
- 56 介護技術の展開②(演習、質疑応答)
- 57 介護技術の展開③(演習、質疑応答)
- 58 他職種の役割と協働・連携(講義、質疑応答)
- 59 演習課題①(演習、質疑応答)
- 60 演習課題②(演習、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル コミュニケーション技術 B		授業の種類 講 義	
授業担当者 加藤 舞		具体的な実務経験の内容 特別養護老人ホーム勤務 7 年	
授業の回数 15	時間数(単位数) 15	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必 修
<p>【授業の目的・ねらい】 介護を必要とする者の理解や援助的関係、援助的コミュニケーションについて理解するとともに、利用者や利用者家族、あるいは多職種協働におけるコミュニケーション能力を身につけるための学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u></p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ①他社に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。②円滑なコミュニケーションの取り方の基本を身につける。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 01 <u>介護におけるチームのコミュニケーション</u>とは(講義、質疑応答) 02 <u>介護におけるチームのコミュニケーションの方法</u>(講義、質疑応答) 03 介護における記録の意義と目的(講義、質疑応答) 04 介護における記録の種類(講義、質疑応答) 05 記録の書き方と留意点(講義、質疑応答) 06 記録の活用①(講義、質疑応答) 07 記録の活用②(講義、質疑応答) 08 情報の保護と管理(講義、質疑応答) 09 IT を活用した記録の意義と活用の留意点(講義、質疑応答) 10 報告・連絡・相談の意義と目的(講義、質疑応答) 11 報告・連絡・相談の方法と留意点(講義、質疑応答) 12 会議の意義と目的(講義、質疑応答) 13 会議の種類(講義、質疑応答) 14 会議の方法と留意点(講義、質疑応答) 15 プレゼンテーションの基本(講義、質疑応答)</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 新・介護福祉士養成講座 「⑤コミュニケーション技術」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

科目名	人間関係とコミュニケーション						
担当教員名	野澤美和 加藤舞						
配当学年・学期	2年 前期	時間・単 位数	30	授業区分	講義	必選の別	必修
授業の目的	対人援助に必要な人間の関係性を理解し、関係形成に必要なコミュニケーションの基礎的な知識を習得する学習とする。 介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う学習とする。						
授業の目標 (到達目標)	人間関係とコミュニケーションの基礎では、自己理解、他者理解をもとに対人関係とコミュニケーションについて理解する。また、コミュニケーションの技法の基礎を学び、組織におけるコミュニケーションについて理解する。 チームマネジメントでは、ヒューマンサービスとしての介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶことができる。						
使用テキスト	最新 介護福祉士養成講座1 「人間の理解」 中央法規						
評価基準・方法	授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験結果を総合的に勘案して行う。						

1. 授業計画と内容

回	テーマ・内容	形式	使用テキスト
1	介護実践におけるチームマネジメントの意義	講義	P178
2	ヒューマンサービスとしての介護サービス①	講義	P179
3	ヒューマンサービスとしての介護サービス②	講義	P179
4	介護現場で求められるチームマネジメント①	講義	P179～182
5	介護現場で求められるチームマネジメント②	講義	P183～187
6	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み①	講義	P188～190
7	介護実践におけるチームマネジメントの取り組み②	講義	P191～192
8	ケアを展開するためのチームマネジメント	講義	P203
9	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み①	講義	P204
10	ケアを展開するために必要なチームとその取り組み②	講義	P205
11	チームでケアを展開するためのマネジメント①	講義	P206～P208
12	チームでケアを展開するためのマネジメント②	講義	P209～211
13	チームの力を最大化するためのマネジメント①	講義	P212～215
14	チームの力を最大化するためのマネジメント②	講義	P216～218
15	情報共有の場について考える	講義	P219
16	リーダーシップ・フォロワーシップについて考える	講義	P219
17	人材育成・自己研鑽のためのチームマネジメント	講義	P220
18	介護福祉職のキャリアと求められる実践力①	講義	P220
19	介護福祉職のキャリアと求められる実践力②	講義	P220
20	介護福祉職としてのキャリアデザイン①	講義	P221～223
21	介護福祉職としてのキャリアデザイン②	講義	P224～227
22	介護福祉職のキャリア支援・開発①	講義	P228～230
23	介護福祉職のキャリア支援・開発②	講義	P231～232
24	自己研鑽に必要な支援	講義	P233～242
25	介護福祉士としてのキャリアをイメージする	講義	P250

26	スーパービジョンの機能について理解する	講義	P250
27	組織の目標達成のためのチームマネジメント	講義	P251
28	介護サービスを支える組織の構造	講義	P251
29	介護サービスを支える組織の機能と役割	講義	P252～259
30	介護サービスを支える組織の管理	講義	P260～265

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護過程Ⅰ		授業の種類 講義	
授業担当者 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 19年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護過程の意義、介護過程とチームアプローチについて</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 生活支援の考え方と介護過程の必要性①(講義、質疑応答) 02 生活支援の考え方と介護過程の必要性②(講義、質疑応答) 03 生活支援の考え方と介護過程の必要性③(講義、質疑応答) 04 生活支援の考え方と介護過程の必要性④(講義、質疑応答) 05 介護過程の意義①(講義、質疑応答) 06 介護過程の意義②(講義、質疑応答) 07 介護過程の意義③(講義、質疑応答) 08 介護過程の意義④(講義、質疑応答) 09 介護過程の展開①(講義、質疑応答) 10 介護過程の展開②(講義、質疑応答) 11 展開の基本視点①(講義、質疑応答) 12 展開の基本視点②(講義、質疑応答) 13 ケアマネジメントの全体像①(講義、質疑応答) 14 ケアマネジメントの全体像②(講義、質疑応答) 15 ケアマネジメントの全体像③(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士養成講座 「⑨介護過程」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 ケアマネジメントの全体像④(講義、質疑応答)
17 個別援助計画とケアプランの必要性①(講義、質疑応答)
18 個別援助計画とケアプランの必要性②(講義、質疑応答)
19 個別援助計画とケアプランの必要性③(講義、質疑応答)
20 個別援助計画とケアプランの必要性④(講義、質疑応答)
21 個別援助計画とケアプランの必要性⑤(講義、質疑応答)
22 介護過程の展開とチームアプローチ①(講義、質疑応答)
23 介護過程の展開とチームアプローチ②(講義、質疑応答)

- 24 介護過程の展開とチームアプローチ③(講義、質疑応答)
- 25 介護過程の展開とチームアプローチ④(講義、質疑応答)
- 26 チームアプローチの実際①(講義、質疑応答)
- 27 チームアプローチの実際②(講義、質疑応答)
- 28 チームアプローチの実際③(講義、質疑応答)
- 29 チームアプローチの実際④(講義、質疑応答)
- 30 チームアプローチの実際⑤(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護過程Ⅱ		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 19年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護過程の展開、介護過程の実践的展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 介護過程の展開①(講義、質疑応答) 02 介護過程の展開②(講義、質疑応答) 03 介護過程の展開③(講義、質疑応答) 04 アセスメントとは①(講義、質疑応答) 05 アセスメントとは②(講義、質疑応答) 06 アセスメントとは③(講義、質疑応答) 07 情報の収集①(講義、質疑応答) 08 情報の収集②(講義、質疑応答) 09 情報の収集③(講義、質疑応答) 10 情報の解釈、関連付け、統合①(講義、質疑応答) 11 情報の解釈、関連付け、統合②(講義、質疑応答) 12 情報の解釈、関連付け、統合③(講義、質疑応答) 13 課題の明確化①(講義、質疑応答) 14 課題の明確化②(講義、質疑応答) 15 課題の明確化③(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士養成講座 「⑨介護過程」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 介護過程の実践的展開①(講義、質疑応答)
17 介護過程の実践的展開②(講義、質疑応答)
18 介護過程の実践的展開③(講義、質疑応答)
19 (事例1)要介護3・認知症軽度・ユニット型施設①(演習、質疑応答)
20 (事例1)要介護3・認知症軽度・ユニット型施設②(演習、質疑応答)
21 (事例1)要介護3・認知症軽度・ユニット型施設③(演習、質疑応答)
22 (事例1)要介護3・認知症軽度・ユニット型施設④(演習、質疑応答)

- 23 (事例2)高齢者・リウマチ・訪問介護利用・在宅①(演習、質疑応答)
- 24 (事例2)高齢者・リウマチ・訪問介護利用・在宅②(演習、質疑応答)
- 25 (事例2)高齢者・リウマチ・訪問介護利用・在宅③(演習、質疑応答)
- 26 (事例2)高齢者・リウマチ・訪問介護利用・在宅④(演習、質疑応答)
- 27 (事例3)要介護5・ターミナル・施設入所①(演習、質疑応答)
- 28 (事例3)要介護5・ターミナル・施設入所②(演習、質疑応答)
- 29 (事例3)要介護5・ターミナル・施設入所③(演習、質疑応答)
- 30 (事例3)要介護5・ターミナル・施設入所④(演習、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護過程Ⅲ		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 19 年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1 年・後期	必修・選択 必 修
<p>【授業の目的・ねらい】 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護過程の展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 計画とは①(講義、質疑応答) 02 計画とは②(講義、質疑応答) 03 計画とは③(講義、質疑応答) 04 目標の設定①(講義、質疑応答) 05 目標の設定②(講義、質疑応答) 06 目標の設定③(講義、質疑応答) 07 支援の内容・方法の決定①(講義、質疑応答) 08 支援の内容・方法の決定②(講義、質疑応答) 09 支援の内容・方法の決定③(講義、質疑応答) 10 実施のための準備①(講義、質疑応答) 11 実施のための準備②(講義、質疑応答) 12 実施のための準備③(講義、質疑応答) 13 実施の際の留意点①(講義、質疑応答) 14 実施の際の留意点②(講義、質疑応答) 15 実施の際の留意点③(講義、質疑応答)</p> <p style="text-align: right;">※16－30次項添付</p>			
【使用テキスト・参考文献】 介護福祉士養成講座 「⑨介護過程」(中央法規出版)		【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 実施状況の把握①(講義、質疑応答)
17 実施状況の把握②(講義、質疑応答)
18 実施状況の把握③(講義、質疑応答)
19 記録①(講義、質疑応答)
20 記録②(講義、質疑応答)
21 記録③(演習、質疑応答)
22 評価の目的①(講義、質疑応答)
23 評価の目的②(講義、質疑応答)

- 24 評価の内容と方法①(講義、質疑応答)
- 25 評価の内容と方法②(講義、質疑応答)
- 26 評価の内容と方法③(講義、質疑応答)
- 27 計画の修正の検討①(講義、質疑応答)
- 28 計画の修正の検討②(講義、質疑応答)
- 29 再アセスメントと計画の修正①(講義、質疑応答)
- 30 再アセスメントと計画の修正②(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護過程Ⅳ		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 19年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 1年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程の展開をし、介護計画を立案し適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 介護過程の実践的展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 (事例4)要介護2・認知症中度・在宅サービス利用・家族のかかわり①(講義、質疑応答) 02 (事例4)要介護2・認知症中度・在宅サービス利用・家族のかかわり②(演習、質疑応答) 03 (事例4)要介護2・認知症中度・在宅サービス利用・家族のかかわり③(演習、質疑応答) 04 (事例4)要介護2・認知症中度・在宅サービス利用・家族のかかわり④(演習、質疑応答) 05 (事例5)要介護1(歩行可能)・認知症中程度・GH①(講義、質疑応答) 06 (事例5)要介護1(歩行可能)・認知症中程度・GH②(演習、質疑応答) 07 (事例5)要介護1(歩行可能)・認知症中程度・GH③(演習、質疑応答) 08 (事例5)要介護1(歩行可能)・認知症中程度・GH④(演習、質疑応答) 09 (事例6)身体障害・知的障害(脳性麻痺)・身体障害者療護施設①(講義、質疑応答) 10 (事例6)身体障害・知的障害(脳性麻痺)・身体障害者療護施設②(演習、質疑応答) 11 (事例6)身体障害・知的障害(脳性麻痺)・身体障害者療護施設③(演習、質疑応答) 12 (事例6)身体障害・知的障害(脳性麻痺)・身体障害者療護施設④(演習、質疑応答) 13 (事例7)特養・高齢者①(講義、質疑応答) 14 (事例7)特養・高齢者②(演習、質疑応答) 15 (事例7)特養・高齢者③(演習、質疑応答) ※16-90次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「⑨介護過程」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 (事例7)特養・高齢者④(演習、質疑応答)
- 17 (事例7)特養・高齢者⑤(演習、質疑応答)
- 18 (事例8)老健・高齢者①(講義、質疑応答)
- 19 (事例8)老健・高齢者②(演習、質疑応答)
- 20 (事例8)老健・高齢者③(演習、質疑応答)
- 21 (事例8)老健・高齢者④(演習、質疑応答)
- 22 (事例8)老健・高齢者⑤(演習、質疑応答)

- 23 (事例9)身体障害者療護施設・脳性麻痺の患者①(講義、質疑応答)
- 24 (事例9)身体障害者療護施設・脳性麻痺の患者②(演習、質疑応答)
- 25 (事例9)身体障害者療護施設・脳性麻痺の患者③(演習、質疑応答)
- 26 (事例9)身体障害者療護施設・脳性麻痺の患者④(演習、質疑応答)
- 27 (事例10)在宅・高齢者①(講義・質疑応答)
- 28 (事例10)在宅・高齢者②(演習・質疑応答)
- 29 (事例10)在宅・高齢者③(演習・質疑応答)
- 30 (事例10)在宅・高齢者④(演習・質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 介護過程Ⅴ		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 19年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>他の科目で学習した知識や技術を統合して、介護過程を展開し、介護計画を立案し、適切な介護サービスの提供ができる能力を養う学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>介護過程の実践的展開について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 利用者ができるだけなじみのある環境で日常的な生活が送れるよう、利用者ひとりひとりの生活している状態を的確に把握し、自立支援に資するサービスを総合的、計画的に提供できる能力を身につける。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 介護過程の実践的展開①(講義、質疑応答)</p> <p>02 介護過程の実践的展開②(講義、質疑応答)</p> <p>03 介護過程の実践的展開③(演習、質疑応答)</p> <p>04 (事例1)精神障害者のある人の事例①(講義、質疑応答)</p> <p>05 (事例1)精神障害者のある人の事例②(演習、質疑応答)</p> <p>06 (事例1)精神障害者のある人の事例③(演習、質疑応答)</p> <p>07 (事例1)精神障害者のある人の事例④(演習、質疑応答)</p> <p>08 (事例2)在宅で暮らすALS患者の事例①(講義、質疑応答)</p> <p>09 (事例2)在宅で暮らすALS患者の事例②(演習、質疑応答)</p> <p>10 (事例2)在宅で暮らすALS患者の事例③(演習、質疑応答)</p> <p>11 (事例2)在宅で暮らすALS患者の事例④(演習、質疑応答)</p> <p>12 (事例3)最期を自宅で迎えた高齢者の事例①(講義、質疑応答)</p> <p>13 (事例3)最期を自宅で迎えた高齢者の事例②(演習、質疑応答)</p> <p>14 (事例3)最期を自宅で迎えた高齢者の事例③(演習、質疑応答)</p> <p>15 (事例3)最期を自宅で迎えた高齢者の事例④(演習、質疑応答) ※16-90次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>介護福祉士養成講座 「⑨介護過程」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 (事例4)雪の多い地方の暮らし①(講義、質疑応答)
- 17 (事例4)雪の多い地方の暮らし②(演習、質疑応答)
- 18 (事例4)雪の多い地方の暮らし③(演習、質疑応答)
- 19 (事例5)離島に住む高齢者の在宅復帰支援①(講義、質疑応答)
- 20 (事例5)離島に住む高齢者の在宅復帰支援②(演習、質疑応答)
- 21 (事例5)離島に住む高齢者の在宅復帰支援③(演習、質疑応答)
- 22 (事例6)都心に住むひとり暮らしの高齢者①(講義、質疑応答)
- 23 (事例6)都心に住むひとり暮らしの高齢者②(演習、質疑応答)

- 24 (事例6)都心に住むひとり暮らしの高齢者③(演習、質疑応答)
- 25 (事例7)お遍路さんとともに(生きていた時代)①(講義、質疑応答)
- 26 (事例7)お遍路さんとともに(生きていた時代)②(演習、質疑応答)
- 27 (事例7)お遍路さんとともに(生きていた時代)③(演習、質疑応答)
- 28 (事例8)ストレッチャーで入所した高齢者が歩いて映画館へ(社会参加)①(講義、質疑応答)
- 29 (事例8)ストレッチャーで入所した高齢者が歩いて映画館へ(社会参加)②(演習、質疑応答)
- 30 (事例8)ストレッチャーで入所した高齢者が歩いて映画館へ(社会参加)③(演習、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル こころとからだのしくみⅡ		授業の種類 講義	
授業担当者 木佐貫 美香		具体的な実務経験の内容 病院勤務7年	
授業の回数 90	時間数(単位数) 90	配当学年・時期 2年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 介護技術の根拠となる人体の構造や機能及び介護サービスの提供における安全への留意点や心理的側面への配慮について理解する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 <u>からだのしくみの理解、身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持、排泄、睡眠等に関連したこころとからだのしくみ、死にゆく人のこころとからだのしくみ</u></p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ①あらゆる介護場面に共通する基礎的な介護の知識・技術を習得する。②介護実践の根拠を理解する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 からだのしくみの理解①心身の調和(講義、質疑応答)</p> <p>02 からだのしくみの理解②生命の維持と恒常性のしくみ(講義、質疑応答)</p> <p>03 からだのしくみの理解③からだの部位の役割①(講義、質疑応答)</p> <p>04 からだのしくみの理解④からだの部位の役割②(講義、質疑応答)</p> <p>05 からだの動き①骨・関節の動き(講義、質疑応答)</p> <p>06 からだの動き②筋肉の動き(講義、質疑応答)</p> <p>07 からだの動き③神経の動き(講義、質疑応答)</p> <p>08 からだの動き④ポディメカニクス①動き(講義、質疑応答)</p> <p>09 からだの動き⑤ポディメカニクス②(講義、質疑応答)</p> <p>10 身じたくのしくみ①なぜ、身じたくを整えるのか(講義、質疑応答)</p> <p>11 身じたくのしくみ②身じたくに関連したこころのしくみ(講義、質疑応答)</p> <p>12 身じたくのしくみ③身じたくに関連したからだのしくみ(講義、質疑応答)</p> <p>13 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・老化による機能低下①(講義、質疑応答)</p> <p>14 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・老化による機能低下②(講義、質疑応答)</p> <p>15 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・老化による機能低下③(講義、質疑応答) ※16-90次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座 「⑭こころとからだのしくみ」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・病気による機能低下①(講義、質疑応答)
- 17 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・病気による機能低下②(講義、質疑応答)
- 18 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・病気による機能低下③(講義、質疑応答)
- 19 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・障害による機能低下①(講義、質疑応答)
- 20 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・障害による機能低下②(講義、質疑応答)
- 21 心身の機能低下が身じたくに及ぼす影響・障害による機能低下③(講義、質疑応答)
- 22 身じたくでの観察のポイント(講義、質疑応答)
- 23 身じたくでの医療職との連携ポイント(講義、質疑応答)

- 24 移動のしきみ①なぜ、移動をするのか(講義、質疑応答)
- 25 移動のしきみ②移動に関連したところのしきみ(講義、質疑応答)
- 26 移動のしきみ③移動に関連したからだのしきみ(講義、質疑応答)
- 27 心身の機能低下が移動に及ぼす影響・老化による機能低下①(講義、質疑応答)
- 28 心身の機能低下が移動に及ぼす影響・老化による機能低下②(講義、質疑応答)
- 29 心身の機能低下が移動に及ぼす影響・病気による機能低下①(講義、質疑応答)
- 30 心身の機能低下が移動に及ぼす影響・病気による機能低下②(講義、質疑応答)
- 31 心身の機能低下が移動に及ぼす影響・障害による機能低下①(講義、質疑応答)
- 32 心身の機能低下が移動に及ぼす影響・障害による機能低下②(講義、質疑応答)
- 33 移動での観察ポイント(講義、質疑応答)
- 34 移動での医療職との連携ポイント(講義、質疑応答)
- 35 食事のしきみ①なぜ、食事をするのか(講義、質疑応答)
- 36 食事のしきみ②食事に関連したところのしきみ(講義、質疑応答)
- 37 食事のしきみ③食事に関連したからだのしきみ(講義、質疑応答)
- 38 心身の機能低下が食事に及ぼす影響・老化による機能低下①(講義、質疑応答)
- 39 心身の機能低下が食事に及ぼす影響・老化による機能低下②(講義、質疑応答)
- 40 心身の機能低下が食事に及ぼす影響・病気による機能低下①(講義、質疑応答)
- 41 心身の機能低下が食事に及ぼす影響・病気による機能低下②(講義、質疑応答)
- 42 心身の機能低下が食事に及ぼす影響・障害による機能低下①(講義、質疑応答)
- 43 心身の機能低下が食事に及ぼす影響・障害による機能低下②(講義、質疑応答)
- 44 食事での観察ポイント(講義、質疑応答)
- 45 食事での医療職との連携ポイント(講義、質疑応答)
- 46 入浴・清潔保持のしきみ①なぜ、入浴・清潔保持をするのか(講義、質疑応答)
- 47 入浴・清潔保持のしきみ②入浴・清潔保持に関連したところのしきみ(講義、質疑応答)
- 48 入浴・清潔保持のしきみ③入浴・清潔保持に関連したからだのしきみ(講義、質疑応答)
- 49 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響・老化による機能低下①(講義、質疑応答)
- 50 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響・老化による機能低下②(講義、質疑応答)
- 51 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響・病気による機能低下①(講義、質疑応答)
- 52 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響・病気による機能低下②(講義、質疑応答)
- 53 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響・障害による機能低下①(講義、質疑応答)
- 54 心身の機能低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響・障害による機能低下②(講義、質疑応答)
- 55 入浴・清潔保持での観察ポイント(講義、質疑応答)
- 56 入浴・清潔保持での医療職との連携ポイント(講義、質疑応答)
- 57 排泄のしきみ①なぜ、排泄をするのか(講義、質疑応答)
- 58 排泄のしきみ②排泄に関連したところのしきみ(講義、質疑応答)
- 59 排泄のしきみ③排泄に関連したからだのしきみ(講義、質疑応答)
- 60 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響・老化による機能低下①(講義、質疑応答)
- 61 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響・老化による機能低下②(講義、質疑応答)
- 62 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響・病気による機能低下①(講義、質疑応答)
- 63 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響・病気による機能低下②(講義、質疑応答)
- 64 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響・障害による機能低下①(講義、質疑応答)
- 65 心身の機能低下が排泄に及ぼす影響・障害による機能低下②(講義、質疑応答)
- 66 排泄での観察ポイント(講義、質疑応答)
- 67 排泄での医療職との連携ポイント(講義、質疑応答)
- 68 睡眠のしきみ①なぜ、睡眠をするのか(講義、質疑応答)
- 69 睡眠のしきみ②睡眠に関連したところのしきみ(講義、質疑応答)
- 70 睡眠のしきみ③睡眠に関連したからだのしきみ(講義、質疑応答)
- 71 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響・老化による機能低下①(講義、質疑応答)
- 72 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響・老化による機能低下②(講義、質疑応答)
- 73 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響・病気による機能低下①(講義、質疑応答)
- 74 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響・病気による機能低下②(講義、質疑応答)
- 75 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響・障害による機能低下①(講義、質疑応答)
- 76 心身の機能低下が睡眠に及ぼす影響・障害による機能低下②(講義、質疑応答)
- 77 睡眠での観察ポイント(講義、質疑応答)
- 78 睡眠での医療職との連携ポイント(講義、質疑応答)
- 79 死を理解する①生物学的な死(講義、質疑応答)
- 80 死を理解する②法律的な死(講義、質疑応答)

- 81 死を理解する③臨床的な死(講義、質疑応答)
- 82 身体機能低下の特徴(講義、質疑応答)
- 83 死後の身体的変化(講義、質疑応答)
- 84 死にゆく人のこころとからだのしくみ(講義、質疑応答)
- 85 「死」を受容する段階(講義、質疑応答)
- 86 家族の「死」を受容する段階(講義、質疑応答)
- 87 呼吸困難時に行われる医療の実際と介護の連携(講義、質疑応答)
- 88 疼痛緩和のために行われる医療の実際と介護の連携(講義、質疑応答)
- 89 その他①(講義、質疑応答)
- 90 その他②(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 救急法		授業の種類 講義・演習	
授業担当者 木佐貫 美香		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7 年	
授業の回数 15	時間数(単位数) 15	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>①正しい救命手当、救急手当の方法を理解する。②手当を行う上で、自身がかかわれる範囲を正しく認識する。③人間の「生命」の基本的仕組みを学習する機会とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>一般的な救命手当、救急手当の方法について。 生命の尊さと、<u>生命の基本的仕組み</u>の説明。</p> <p>【授業終了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>①上記、授業の目的およびねらいについての項目をよく学習し、理解させ、介護福祉士としての資質・教養を高める。②本講座を通して、「生命の尊さ」や「<u>生命</u>」の基本的仕組みを<u>しっかりと理解する。</u></p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 救急手当①倒れている人の容態のみかた(講義、演習、質疑応答)</p> <p>02 救急手当②救命、応急手当の手順(講義、演習、質疑応答)</p> <p>03 救急手当③倒れている人の運び方(講義、演習、質疑応答)</p> <p>04 救急手当④一時救命手当①(講義、演習、質疑応答)</p> <p>05 救急手当⑤一時救命手当②(講義、演習、質疑応答)</p> <p>06 救急手当⑥一時救命手当③(講義、演習、質疑応答)</p> <p>07 救急手当⑦一時救命手当④(講義、演習、質疑応答)</p> <p>08 救急手当⑧一時救命手当⑤(講義、演習、質疑応答)</p> <p>09 救急手当⑨止血法①(講義、演習、質疑応答)</p> <p>10 救急手当⑩止血法②(講義、演習、質疑応答)</p> <p>11 救急手当⑪止血法③(講義、演習、質疑応答)</p> <p>12 救急手当⑫止血法④(講義、演習、質疑応答)</p> <p>13 救急手当⑬気道内異物①(講義、演習、質疑応答)</p> <p>14 救急手当⑭気道内異物②(講義、演習、質疑応答)</p> <p>15 救急手当⑮気道内異物③(講義、演習、質疑応答)</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>「救急蘇生法の指針 2015」(へるす出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 医療的ケア I (基本研修)		授業の種類 講義	
授業担当者 木佐貫 美香 湯治 由美 木村 早苗		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7 年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 2年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>医行為とは何か、介護福祉士が行う医療的ケアの意味を理解、安全・適切に実施できるように、医療的ケア実施の基礎を学ぶ、高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論では、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部の吸引について、安全で正確な実施手順について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>不特定多数の者に対して、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部の吸引が、安全で正確に行えるための知識を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 医療的ケア実施の基礎①医療的ケアを学ぶにあたって(講義、質疑応答)</p> <p>02 医療的ケア実施の基礎②医療的ケアとは(講義、質疑応答)</p> <p>03 医療的ケア実施の基礎③医行為について(講義、質疑応答)</p> <p>04 医療的ケア実施の基礎④喀痰吸引等制度(講義、質疑応答)</p> <p>05 医療的ケア実施の基礎⑤医療的ケアと喀痰吸引等の背景(講義、質疑応答)</p> <p>06 医療的ケア実施の基礎⑥その他の制度(講義、質疑応答)</p> <p>07 医療的ケア実施の基礎⑦喀痰吸引や経管栄養の安全な実施(講義、質疑応答)</p> <p>08 医療的ケア実施の基礎⑧救急蘇生(講義、質疑応答)</p> <p>09 医療的ケア実施の基礎⑨感染予防(講義、質疑応答)</p> <p>10 医療的ケア実施の基礎⑩介護職の感染予防(講義、質疑応答)</p> <p>11 医療的ケア実施の基礎⑪療養環境の清潔、消毒法(講義、質疑応答)</p> <p>12 医療的ケア実施の基礎⑫消毒と滅菌(講義、質疑応答)</p> <p>13 医療的ケア実施の基礎⑬身体・精神の健康(講義、質疑応答)</p> <p>14 医療的ケア実施の基礎⑭健康状態を知る項目(バイタルサインなど)(講義、質疑応答)</p> <p>15 医療的ケア実施の基礎⑮急変状態について(講義、質疑応答) ※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座 「⑮医療的ケア」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業時数の100%を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、試験を実施し、90点以上を合格とする。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論①呼吸のしくみとはたらき(講義、質疑応答)
- 17 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論②喀痰吸引とは(講義、質疑応答)
- 18 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論③人工呼吸器と吸引①(講義、質疑応答)
- 19 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論④人工呼吸器と吸引②(講義、質疑応答)
- 20 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑤人工呼吸器と吸引③(講義、質疑応答)
- 21 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑥子どもの吸引について①(講義、質疑応答)

- 22 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑦子どもの吸引について②(講義、質疑応答)
- 23 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑧吸引を受ける利用者や家族の気持ち(講義、質疑応答)
- 24 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑨説明と同意(講義、質疑応答)
- 25 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑩呼吸器系の感染と予防(講義、質疑応答)
- 26 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑪急変・事故発生時の対応と事前対策(講義、質疑応答)
- 27 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑫器具・器材とそのしくみ、清潔の保持(講義、質疑応答)
- 28 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑬吸引の技術と留意点(講義、質疑応答)
- 29 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑭吸引実施手順と留意点(講義、質疑応答)
- 30 高齢者および障害児・者の喀痰吸引概論⑮喀痰吸引に伴うケア(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 医療的ケアⅡ(基本研修)		授業の種類 講義	
授業担当者 木佐貫 美香 湯治 由美 木村 早苗		具体的な実務経験の内容 病院勤務7年	
授業の回数 20	時間数(単位数) 20	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>胃ろう及び腸瘻、経鼻経管栄養の安全で正確な実施手順について</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>不特定多数の者に対して、胃ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養が、安全で正確に行えるための知識を習得する。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 高齢者および障害児・者の経管栄養①経管栄養とは(講義、質疑応答)</p> <p>02 高齢者および障害児・者の経管栄養②消化器系のしくみとはたらき(講義、質疑応答)</p> <p>03 高齢者および障害児・者の経管栄養③消化・吸収とよくある消化器の症状(講義、質疑応答)</p> <p>04 高齢者および障害児・者の経管栄養④経管栄養とは(講義、質疑応答)</p> <p>05 高齢者および障害児・者の経管栄養⑤注入する内容に関する知識(講義、質疑応答)</p> <p>06 高齢者および障害児・者の経管栄養⑥経管栄養実施上の留意点(講義、質疑応答)</p> <p>07 高齢者および障害児・者の経管栄養⑦子どもの経管栄養について(講義、質疑応答)</p> <p>08 高齢者および障害児・者の経管栄養⑧経管栄養を受ける利用者や家族の気持ちと対応、説明と同意(講義、質疑応答)</p> <p>09 高齢者および障害児・者の経管栄養⑨経管栄養による生じる危険、注入後の安全確認(講義、質疑応答)</p> <p>10 高齢者および障害児・者の経管栄養⑩急変・事故発生時の対応と事前対策(講義、質疑応答)</p> <p>11 高齢者および障害児・者の経管栄養⑪経管栄養で用いる器具・器材とそのしくみ、清潔の保持(講義、質疑応答)</p> <p>12 高齢者および障害児・者の経管栄養⑫経管栄養の技術と留意点(講義、質疑応答)</p> <p>13 高齢者および障害児・者の経管栄養⑬経管栄養実施手順と留意点(講義、質疑応答)</p> <p>14 高齢者および障害児・者の経管栄養⑭経管栄養実施中・後の利用者の身体変化の確認と医師・看護職への報告(講義、質疑応答)</p> <p>15 高齢者および障害児・者の経管栄養⑮経管栄養終了後の片づけ方法と留意点(講義、質疑応答)※16-20次項添付</p> <p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座 「⑮医療的ケア」(中央法規出版)</p> <p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の100%を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、試験を実施し、90点以上を合格とする。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>16 高齢者および障害児・者の経管栄養⑯経管栄養に必要なケア(講義、質疑応答)</p> <p>17 高齢者および障害児・者の経管栄養⑰報告および記録(講義、質疑応答)</p> <p>18 高齢者および障害児・者の経管栄養⑱経管栄養実施手順まとめ(講義、質疑応答)</p> <p>19 高齢者および障害児・者の喀痰吸引・経管栄養①演習のオリエンテーション①(講義、質疑応答)</p> <p>20 高齢者および障害児・者の喀痰吸引・経管栄養②演習のオリエンテーション②(講義、質疑応答)</p>			

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 医療的ケア(演習)		授業の種類 演習	
授業担当者 木佐貫 美香 湯治 由美 木村 早苗		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7年	
授業の回数 10	時間数(単位数) 10	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 医療的ケア(喀痰吸引・経管栄養)を安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 口腔内喀痰吸引、鼻腔内喀痰吸引、気管カニューレ内部の喀痰吸引、胃ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養それぞれについて、5回以上の演習を行い手順通りに準備、実施、報告、片付け及び記録が、安全で正確に行えるように演習を行う。</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 不特定多数の者に対して、口腔内、鼻腔内、気管カニューレ内部の吸引及び胃ろうによる経管栄養、経鼻経管栄養が、安全で正確に行えるための技術を習得する。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 喀痰吸引のケア実施の手引き①口腔内および鼻腔内①(演習・質疑応答)</p> <p>02 喀痰吸引のケア実施の手引き②口腔内および鼻腔内②(演習・質疑応答)</p> <p>03 喀痰吸引のケア実施の手引き③気管カニューレ内部①(演習・質疑応答)</p> <p>04 喀痰吸引のケア実施の手引き④気管カニューレ内部②(演習・質疑応答)</p> <p>05 経管栄養のケア実施の手引き①胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養①(演習・質疑応答)</p> <p>06 経管栄養のケア実施の手引き②胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養②(演習・質疑応答)</p> <p>07 経管栄養のケア実施の手引き③経鼻経管栄養①(演習・質疑応答)</p> <p>08 経管栄養のケア実施の手引き④経鼻経管栄養②(演習・質疑応答)</p> <p>09 救急蘇生法の手引き①救急蘇生法(演習・質疑応答)</p> <p>10 救急蘇生法の手引き②AED使用の手順(演習・質疑応答)</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座 「⑮医療的ケア」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業時数の100%を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、実技試験を実施し、90点以上を合格とする。</p>	

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 卒業研究		授業の種類 演習	
授業担当者 畠中 永典 木佐貫 美香 加藤 舞 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 病院勤務 7年 特別養護老人ホーム勤務 7年 介護老人保健施設勤務 19年	
授業の回数 45	時間数(単位数) 45	配当学年・時期 1年後期・2年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 ①介護福祉学科専任教員の指導のもとに、介護の諸分野における特定の課題を1年間にわたって継続して研究し、課題探求能力を養う。②研究過程で、それまでに修得した知識を有効かつ適切に応用できる能力を育成する。③<u>統計調査等、数学的・論理的思考の学習を行う。</u></p> <p>【授業全体の内容の概要】 研究テーマ(領域)の設定、研究計画、研究・調査、論文執筆</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 ①研究すべき課題を見出すことができる。②合理的に段取りを設定し、研究課題を解決することができる。③発表能力、質疑応答能力、文書作成能力を身につける。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 01 研究テーマ(領域)の設定 02 研究テーマ(領域)の設定 03 研究計画(仮設、方法等、研究枠組みの検討) 04 研究計画(仮設、方法等、研究枠組みの検討) 05 研究計画(仮設、方法等、研究枠組みの検討) 06 研究・調査 07 研究・調査 08 研究・調査 09 研究・調査 10 研究・調査 11 研究・調査 12 研究・調査 13 研究・調査 14 研究・調査 15 研究・調査</p>			
【使用テキスト・参考文献】		<p>※16-30次項添付</p> <p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席し、卒業研究論文を作成、提出し、指導教員に受理された者に対して単位認定および評価を行うこととする。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 研究・調査
- 17 研究・調査
- 18 研究・調査
- 19 研究・調査

- 20 結果分析・中間発表会
- 21 結果分析・中間発表会
- 22 論文執筆
- 23 論文執筆
- 24 論文執筆
- 25 論文執筆
- 26 論文執筆
- 27 論文執筆
- 28 論文執筆
- 29 論文執筆
- 30 論文執筆
- 31 論文執筆
- 32 論文執筆
- 33 論文執筆
- 34 論文執筆
- 35 論文執筆
- 36 論文執筆
- 37 論文執筆
- 38 論文執筆
- 39 論文執筆
- 40 論文執筆
- 41 論文執筆
- 42 論文執筆
- 43 論文執筆
- 44 卒業研究発表会
- 45 卒業研究発表会

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 認知症の理解Ⅱ		授業の種類 講義	
授業担当者 野澤 美和		具体的な実務経験の内容 介護老人保健施設勤務 19年	
授業の回数 30	時間数(単位数) 30	配当学年・時期 2年・後期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 認知症に関する基礎的知識を習得するとともに、認知症のある人の体験や意思表示が困難な特性を理解し、本人のみならず家族を含めた周囲の環境にも配慮した介護の視点を習得する学習とする。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>認知症に伴うことからだの変化と日常生活、連携と協働、家族への支援</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】①他社に共感でき、相手の立場に立って考えられる姿勢を身につける。②介護を必要とする人の潜在能力を引き出し、活用・発揮させることの意義について理解できる。③人権擁護の視点、職業倫理を身につける。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 認知症の人へのかかわり①(講義、質疑応答)</p> <p>02 認知症の人へのかかわり②(講義、質疑応答)</p> <p>03 認知症への気づき①(講義、質疑応答)</p> <p>04 認知症への気づき②(講義、質疑応答)</p> <p>05 初期の認知症への介護①(講義、質疑応答)</p> <p>06 初期の認知症への介護②(講義、質疑応答)</p> <p>07 中期の認知症への介護①(講義、質疑応答)</p> <p>08 中期の認知症への介護②(講義、質疑応答)</p> <p>09 後期の認知症への介護①(講義、質疑応答)</p> <p>10 後期の認知症への介護②(講義、質疑応答)</p> <p>11 ターミナル期の介護①(講義、質疑応答)</p> <p>12 ターミナル期の介護②(講義、質疑応答)</p> <p>13 認知症の人を支える介護の仕事①(講義、質疑応答)</p> <p>14 認知症の人を支える介護の仕事②(講義、質疑応答)</p> <p>15 <u>連携と協働・地域におけるサポート体制①</u>(講義、質疑応答) ※16-30次項添付</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>新・介護福祉士養成講座 「⑫認知症の理解」(中央法規出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 連携と協働・地域におけるサポート体制②(講義、質疑応答)
- 17 連携と協働・チームアプローチ①(講義、質疑応答)
- 18 連携と協働・チームアプローチ②(講義、質疑応答)
- 19 介護者自身の体験①(講義、質疑応答)
- 20 介護者自身の体験②(講義、質疑応答)
- 21 家族への支援・家族へのレスパイトケア①(講義、質疑応答)
- 22 家族への支援・家族へのレスパイトケア②(講義、質疑応答)
- 23 家族への支援・家族のエンパワメント①(講義、質疑応答)
- 24 家族への支援・家族のエンパワメント②(講義、質疑応答)

- 25 家族への支援・家族会と家族教室①(講義、質疑応答)
- 26 家族への支援・家族会と家族教室②(講義、質疑応答)
- 27 介護保険制度①(講義、質疑応答)
- 28 介護保険制度②(講義、質疑応答)
- 29 その他の施策①(講義、質疑応答)
- 30 その他の施策②(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 医療事務(医科)		授業の種類 講義	
授業担当者 木立 幸子		具体的な実務経験の内容 病院勤務6年	
授業の回数 120	時間数(単位数) 120	配当学年・時期 1年・前期	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】</p> <p>診療報酬請求に関する知識を学び、病院勤務に必要な知識及び技術を身につける。 医療事務技能審査試験・メディカルクラーク(医科)資格取得の為の知識の取得。</p> <p>【授業全体の内容の概要】</p> <p>患者接遇、医療保険制度、医療関連法規、レセプトの理解</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】</p> <p>医療事務技能審査試験・メディカルクラーク(医科)資格取得に足る知識の習得。</p>			
<p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】</p> <p>コマ数</p> <p>01 医療保険制度の基礎知識・点数表の読み方(講義、質疑応答)</p> <p>02 初診料と再診料①(講義、質疑応答)</p> <p>03 初診料と再診料②(講義、質疑応答)</p> <p>04 初診料と再診料③(講義、質疑応答)</p> <p>05 初診料と再診料④(問題演習、質疑応答)</p> <p>06 初診料と再診料⑤(問題演習、質疑応答)</p> <p>07 医学管理等①(講義、質疑応答)</p> <p>08 医学管理等②(講義、質疑応答)</p> <p>09 医学管理等③(講義、質疑応答)</p> <p>10 医学管理等④(問題演習、質疑応答)</p> <p>11 医学管理等⑤(問題演習、質疑応答)</p> <p>12 在宅医療①(講義、質疑応答)</p> <p>13 在宅医療②(講義、質疑応答)</p> <p>14 在宅医療③(問題演習、質疑応答)</p> <p>15 在宅医療④(問題演習、質疑応答)</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】</p> <p>医療事務 テキスト1 (医科・歯科共通) テキスト2 (医科・歯科・クリニック共通) 医科テキスト3・4 医科スタディブック ハンドブック(医科) (東京丸の内出版)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など)</p> <p>授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 処置①(講義、質疑応答)
- 17 処置②(講義、質疑応答)
- 18 処置③(講義、質疑応答)
- 19 処置④(問題演習、質疑応答)
- 20 処置⑤(問題演習、質疑応答)
- 21 手術・輸血・麻酔①(講義、質疑応答)

- 22 手術・輸血・麻酔②(講義、質疑応答)
- 23 手術・輸血・麻酔③(講義、質疑応答)
- 24 手術・輸血・麻酔④(問題演習、質疑応答)
- 25 手術・輸血・麻酔⑤(問題演習、質疑応答)
- 26 検査①(講義、質疑応答)
- 27 検査②(講義、質疑応答)
- 28 検査③(講義、質疑応答)
- 29 検査④(講義、質疑応答)
- 30 検査⑤(講義、質疑応答)
- 31 検査⑥(講義、質疑応答)
- 32 病理診断①(講義、質疑応答)
- 33 病理診断②(講義、質疑応答)
- 34 病理診断③(問題演習、質疑応答)
- 35 リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療①(講義、質疑応答)
- 36 リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療②(講義、質疑応答)
- 37 リハビリテーション・精神科専門療法・放射線治療③(問題演習、質疑応答)
- 38 入院料等①(講義、質疑応答)
- 39 入院料等②(講義、質疑応答)
- 40 入院料等③(講義、質疑応答)
- 41 入院料等④(問題演習、質疑応答)
- 42 入院料等⑤(問題演習、質疑応答)
- 43 投薬(処方箋)①(講義、質疑応答)
- 44 投薬(処方箋)②(講義、質疑応答)
- 45 投薬(処方箋)③(講義、質疑応答)
- 46 投薬(処方箋)④(問題演習、質疑応答)
- 47 投薬(処方箋)⑤(問題演習、質疑応答)
- 48 投薬(処方箋)⑥(問題演習、質疑応答)
- 49 注射①(講義、質疑応答)
- 50 注射②(講義、質疑応答)
- 51 注射③(講義、質疑応答)
- 52 注射④(問題演習、質疑応答)
- 53 注射⑤(問題演習、質疑応答)
- 54 注射⑥(問題演習、質疑応答)
- 55 画像診断①(講義、質疑応答)
- 56 画像診断②(講義、質疑応答)
- 57 画像診断③(講義、質疑応答)
- 58 画像診断④(問題演習、質疑応答)
- 59 画像診断⑤(問題演習、質疑応答)
- 60 画像診断⑥(問題演習、質疑応答)
- 61 カルテとレセプトの見方(講義、質疑応答)
- 62 レセプト点検①(講義、質疑応答)
- 63 レセプト点検②(講義、質疑応答)
- 64 レセプト点検③(講義、質疑応答)
- 65 レセプト点検④(講義、質疑応答)
- 66 医療機関の分類と保険医療機関
- 67 外来業務と入院業務(講義、質疑応答)
- 68 医療保険制度①(講義、質疑応答)
- 69 医療保険制度②(講義、質疑応答)
- 70 医療保険制度③(講義、質疑応答)
- 71 医療保険制度④(講義、質疑応答)
- 72 医療保険制度⑤(講義、質疑応答)
- 73 後期高齢者医療制度①(講義、質疑応答)
- 74 後期高齢者医療制度②(講義、質疑応答)
- 75 窓口徴収(講義、質疑応答)
- 76 公費負担医療制度①(講義、質疑応答)
- 77 公費負担医療制度②(講義、質疑応答)
- 78 公費負担医療制度③(講義、質疑応答)

- 79 公費負担医療制度④(講義、質疑応答)
- 80 公費負担医療制度⑤(講義、質疑応答)
- 81 介護保険制度①(講義、質疑応答)
- 82 介護保険制度②(講義、質疑応答)
- 83 健康保険法①(講義、質疑応答)
- 84 健康保険法②(講義、質疑応答)
- 85 保険医療機関及び保険医療養担当規則①(講義、質疑応答)
- 86 保険医療機関及び保険医療養担当規則②(講義、質疑応答)
- 87 保険医療機関及び保険医療養担当規則③(講義、質疑応答)
- 88 電子カルテシステム・保険外併用療養費・DPC 制度(講義、質疑応答)
- 89 その他の公費負担医療制度・医療費助成制度、労災と自賠責①(講義、質疑応答)
- 90 その他の公費負担医療制度・医療費助成制度、労災と自賠責②(講義、質疑応答)
- 91 患者接遇の基本①(講義、質疑応答)
- 92 患者接遇の基本②(講義、質疑応答)
- 93 患者受付の対応①(講義、質疑応答)
- 94 患者受付の対応②(講義、質疑応答)
- 95 患者受付の対応③(講義、質疑応答)
- 96 個人情報保護の取り扱い①(講義、質疑応答)
- 97 個人情報保護の取り扱い②(講義、質疑応答)
- 98 検定試験対策・実技Ⅰ患者接遇①(問題演習、質疑応答)
- 99 検定試験対策・実技Ⅰ患者接遇②(問題演習、質疑応答)
- 100 検定試験対策・実技Ⅰ患者接遇③(問題演習、質疑応答)
- 101 検定試験対策・実技Ⅰ患者接遇④(問題演習、質疑応答)
- 102 検定試験対策・実技Ⅰ患者接遇⑤(問題演習、質疑応答)
- 103 検定試験対策・学科 医療事務知識①(問題演習、質疑応答)
- 104 検定試験対策・学科 医療事務知識②(問題演習、質疑応答)
- 105 検定試験対策・学科 医療事務知識③(問題演習、質疑応答)
- 106 検定試験対策・学科 医療事務知識④(問題演習、質疑応答)
- 107 検定試験対策・学科 医療事務知識⑤(問題演習、質疑応答)
- 108 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検①(問題演習、質疑応答)
- 109 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検②(問題演習、質疑応答)
- 110 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検③(問題演習、質疑応答)
- 111 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検④(問題演習、質疑応答)
- 112 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑤(問題演習、質疑応答)
- 113 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑥(問題演習、質疑応答)
- 114 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑦(問題演習、質疑応答)
- 115 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑧(問題演習、質疑応答)
- 116 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑨(問題演習、質疑応答)
- 117 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑩(問題演習、質疑応答)
- 118 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑪(問題演習、質疑応答)
- 119 検定試験対策・実技Ⅱ 診療報酬請求事務レセプト点検⑫(問題演習、質疑応答)
- 120 総復習(講義、質疑応答)

【実務経験のある教員等による授業科目】

授 業 概 要

授業のタイトル 医事法規		授業の種類 講義	
授業担当者 木立 幸子 三神 修		具体的な実務経験の内容 病院勤務 6年	
授業の回数 60	時間数(単位数) 60	配当学年・時期 1年・通年	必修・選択 必修
<p>【授業の目的・ねらい】 社会保障制度及び医療関連法規の概要を理解し、知識の定着を図る。</p> <p>【授業全体の内容の概要】 医療施設に関する法規、医療従事者に関する法規、薬事に関する法規、保険診療に関する法規 労働に関する法規、社会福祉に関する法規、公費負担に関する法規、その他の関連法規 保険医療機関及び保険医療養担当規則</p> <p>【授業修了時の達成課題(到達目標)】 医療関連法規を理解し、診療報酬請求事務能力認定試験の資格取得に足る知識の習得。</p> <p>【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】 コマ数 01 社会保障制度及び医療保障制度の概説(講義、質疑応答) 02 医療法①(講義、質疑応答) 03 医療法②(講義、質疑応答) 04 医療法③(講義、質疑応答) 05 医療法④(講義、質疑応答) 06 医療法⑤(講義、質疑応答) 07 医療法⑥(講義、質疑応答) 08 医療従事者に関する法規(講義、質疑応答) 09 医師法(講義、質疑応答) 10 薬剤師法(講義、質疑応答) 11 保健師助産師看護師法(講義、質疑応答) 12 診療放射線技師法(講義、質疑応答) 13 臨床工学技士法(講義、質疑応答) 14 救急救命士法(講義、質疑応答) 15 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律①(講義、質疑応答)</p>			
<p>【使用テキスト・参考文献】 最新 医事関連法の完全知識 (医学通信社) 新 医療秘書実務シリーズ4 改訂 医療関連法規 (建帛社)</p>		<p>【単位認定の方法及び基準】(試験やレポートの評価基準など) 授業時数の80%以上を学ぶ意欲をもって出席した者に対し、期末試験を実施し、60点以上を合格とする。成績評価については、出席率、受講態度、試験成績を総合的に勘案して行う。</p>	

【授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法】

コマ数

- 16 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律②(講義、質疑応答)
- 17 感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律③(講義、質疑応答)

- 18 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律①(講義、質疑応答)
- 19 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律②(講義、質疑応答)
- 20 医薬品・医療機器に関する法律①(講義、質疑応答)
- 21 医薬品・医療機器に関する法律②(講義、質疑応答)
- 22 医療保険制度①(講義、質疑応答)
- 23 医療保険制度②(講義、質疑応答)
- 24 医療保険の種類①(講義、質疑応答)
- 25 医療保険の種類②(講義、質疑応答)
- 26 健康保険法①(講義、質疑応答)
- 27 健康保険法②(講義、質疑応答)
- 28 健康保険法③(講義、質疑応答)
- 29 健康保険法④(講義、質疑応答)
- 30 健康保険法⑤(講義、質疑応答)
- 31 健康保険法⑥(講義、質疑応答)
- 32 健康保険法⑦(講義、質疑応答)
- 33 健康保険法⑧(講義、質疑応答)
- 34 国民健康保険法①(講義、質疑応答)
- 35 国民健康保険法②(講義、質疑応答)
- 36 高齢者の医療の確保に関する法律①(講義、質疑応答)
- 37 高齢者の医療の確保に関する法律②(講義、質疑応答)
- 38 高齢者の医療の確保に関する法律③(講義、質疑応答)
- 39 診療報酬に関する法規(講義、質疑応答)
- 40 社会保険診療報酬支払基金法(講義、質疑応答)
- 41 保険医療機関及び保険医療養担当規則①(講義、質疑応答)
- 42 保険医療機関及び保険医療養担当規則②(講義、質疑応答)
- 43 保険医療機関及び保険医療養担当規則③(講義、質疑応答)
- 44 保険医療機関及び保険医療養担当規則④(講義、質疑応答)
- 45 保険医療機関及び保険医療養担当規則⑤(講義、質疑応答)
- 46 生活保護法(講義、質疑応答)
- 47 介護保険法①(講義、質疑応答)
- 48 介護保険法②(講義、質疑応答)
- 49 介護保険法③(講義、質疑応答)
- 50 介護保険法④(講義、質疑応答)
- 51 介護保険法⑤(講義、質疑応答)
- 52 難病の患者に対する医療等に関する法律(講義、質疑応答)
- 53 労働者災害補償保険法①(講義、質疑応答)
- 54 労働者災害補償保険法②(講義、質疑応答)
- 55 労働者災害補償保険法③(講義、質疑応答)
- 56 労働者災害補償保険法④(講義、質疑応答)
- 57 労働者災害補償保険法⑤(講義、質疑応答)
- 58 自動車損害賠償保障法(講義、質疑応答)
- 59 個人情報の保護に関する法律(講義、質疑応答)
- 60 総復習(講義、質疑応答)